

国内株式および国内債券市場 2019年 7月～9月

運用先市場の状況

作成基準日 2019年9月30日

○国内市場

・株式市場

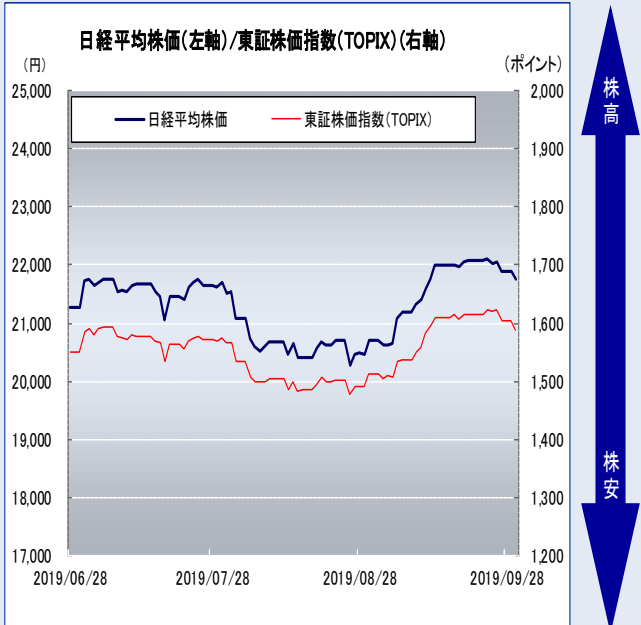
【コメント】

国内株式は上昇しました。

7月は、米中首脳会談において、貿易協議の再開や対中追加関税の先送りなどで合意したことで、上昇して始まりました。その後、利下げに対する思惑や、企業の決算発表により、一進一退の展開となりました。なお、月末には米国で、約10年半ぶりに利下げが実施されました。

8月は、米国の対中追加制裁関税発表を受けて、米中貿易問題の激化懸念が再燃したことや、円高・米ドル安の進行により、大幅下落となりました。中旬に一部対中追加関税の発動先送りが好感される局面があったものの、米債券市場で長短金利が逆転する動きが観測されるなど、米国景気の先行きに対する警戒感の高まりなどが株価の上値を抑えました。

9月は、中東情勢の緊迫化が嫌気される局面があったものの、米中通商協議の再開期待、ECB(欧州中央銀行)の量的緩和再開決定などを受けて、上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

【コメント】

長期金利(10年国債利回り)は低下しました。

7月は、米中通商協議の再開合意や日銀による国債買入れ減額への警戒、米国での利下げ期待後退などにより、長期金利は上昇しました。なお月末引けには、米国で0.25%の利下げが決定されました。

8月は、米中通商交渉の激化や景気後退への懸念を背景に低下基調で推移しました。また、米国が中国を為替操作国に指定したことや香港デモへの警戒感なども、金利上昇を抑制しました。

9月は、米中通商交渉の激化や英国・香港に関する不透明感を背景に低下する場面もありましたが、米中貿易協議再開の報道で上昇しました。また、米国で追加緩和が決定された後、日銀は金融政策を据え置きましたが、10月の会合で経済物価動向を点検する方針を示しました。10月の会合での利下げ観測が高まる一方で、イーロードカーブ(利回り曲線)のステイプ(長短金利差の拡大)化措置への警戒もあり、長期金利はもみ合いとなりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

# まとめレポート

～運用環境振り返り編～

## 外国株式および外国債券、為替市場 2019年 7月～9月

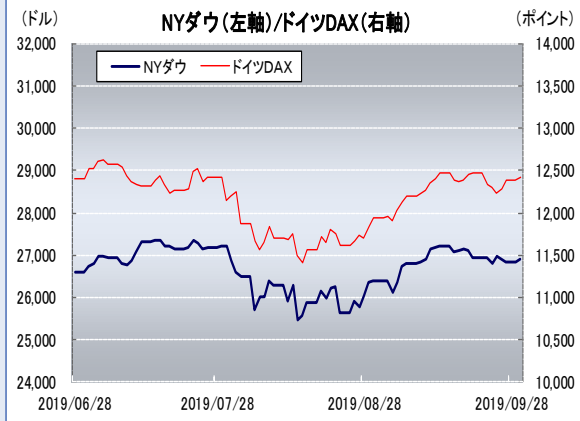
### 運用先市場の状況

作成基準日 2019年9月30日

#### ○外国市場 ・株式市場

##### 【コメント】

米国株式市場は上昇しました。  
7月は、米中通商協議の再開や、利下げ期待の高まりから上昇しました。月末には、市場予想通り利下げが行われ、利益確定の動きから相場は下落しました。8月は、米中貿易摩擦激化への警戒感や、中国やドイツの軟調な経済指標などを背景に、下落しました。9月は、中東情勢の緊迫化を受けた原油価格の急騰やトランプ大統領の弾劾に向けた動きなどが下落要因となったものの、米中通商協議再開の発表や、香港の政治リスク低下などにより上昇しました。米国の追加利下げは、事前の予想通りであり、市場への影響は限定的でした。  
欧州株式市場は小幅に上昇しました。  
概ね米国と同様の動きでしたが、ECBIによる量的緩和再開などが好感された一方、英国のEU離脱問題や域内経済成長の鈍化などが上値を抑え、小幅な上昇にとどまりました。



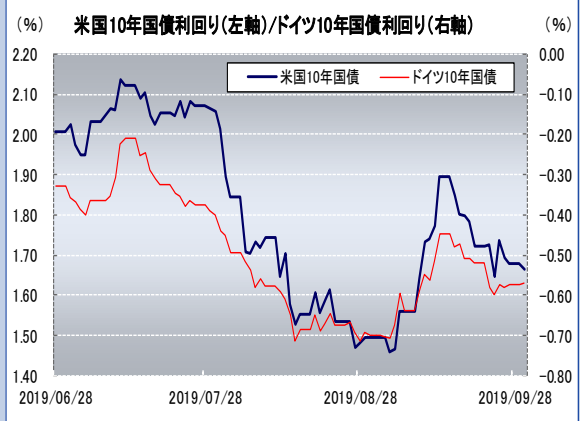
(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

株高  
株安

#### ・債券市場

##### 【コメント】

米国長期金利(10年国債利回り)は低下しました。  
7月は、堅調な経済指標が金利上昇要因となったものの、利下げ期待の高まりにより金利上昇は続かず、月末にかけてみ合い推移となりました。なお月末に、約10年半ぶりの利下げが実施されました。8月は、米中貿易摩擦の激化を受けた、グローバルな景気見通しに対する不透明感を背景に、金利は低位で推移しました。9月は、経済指標の上振れや、米中通商交渉に対する楽観的な見方などを背景に、月の半ばまで上昇基調でしたが、FOMCで利下げが実施された後、中東の地政学リスクが意識されたことやトランプ大統領の弾劾に向けた動きを受けて、金利は低下に転じました。  
ドイツ長期金利(10年国債利回り)は低下しました。  
概ね米国と同様の動きでしたが、欧州経済の減速懸念やECBIによる金融緩和への期待なども、金利低下要因となりました。



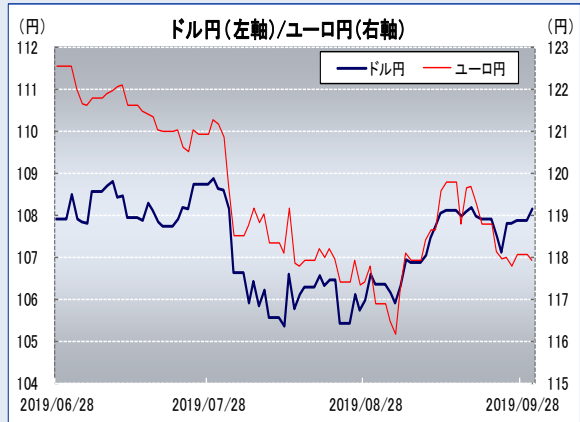
(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

債券安  
債券高

#### ○為替市場

##### 【コメント】

米ドル/円は小幅に円安、ユーロ/円は円高となりました。  
7月は、米ドル/円はレンジ内で米金利の動向に連れる動きとなりました。ユーロは、ユーロ圏の景気懸念や金融緩和観測から軟調に推移しました。  
8月は、グローバル経済に対する不透明感が強まるなかで円が強含みで推移しました。  
9月は、米中の通商交渉の先鋭化に対する警戒感が後退するなかで円が弱含みで推移しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

円安  
円高

**運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841**

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。